

# 県内工芸の輸送機産業等に対する製品に関する試験・研究開発

## －木質複合材料の製品開発研究（第2報）－

Study on utilization of Aomori craft technology in transportation industry.  
- Product development research on wood composite materials (2<sup>nd</sup> Report)-

濱田 圭、館山 大、小松 勇、上野 文明\*  
(\*林業研究所)

近年、建築のみならず列車やバスなどの輸送機の内装材に伝統工芸を採用する事例が増えており新市場参入の好機である。そこで、県内の漆や木工芸の工業規格による試験と、それを踏まえた技術および製品開発を行い、輸送機産業や建築材産業など新たな産業分野に進出するための基盤整備を行う。

昨年度、自動車のカスタムショップなどを対象としたアンケートの結果、難燃化へのニーズが高いことから、処理剤の比較試験を実施し、ホウ酸系難燃剤を選定した。難燃性に関する試験は、国土交通省の鉄道車両用材料燃焼性試験に準拠した方法で実施した。

今年度は、ホウ酸系難燃剤の処理方法、表面保護用の上塗剤の選定、耐候性の評価試験を実施した。その結果、難燃剤の処理方法として18h以上の浸漬処理、上塗剤としてガラス塗料を選択することで、目的の難燃性を付与できることが分かった。難燃性の耐候性について実証試験したところ、促進耐光試験(100h)後や冷熱湿繰り返し後では、処理効果が失われていた。

また、実際の使用場面を想定して、屋外暴露試験を追加で実施したところ、暴露1ヶ月で難燃性が失われることが分かった。この結果を踏まえ、屋内(車内)向けの商品開発を行うこととし、リモートワーク用車内テーブルを制作した。



写真1 屋外暴露試験



写真2 車内テーブル